深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **見舞いに来た人々は、絵仏師良秀に対してどのような感情を持っているか。また、その感情はどのように変化したか。順を追ってまとめてみよう。**

【答】 火災で延焼する自宅を眺めている良秀に対して同情していた。しかし、炎を見ていた良秀が「もうけものをした」と言って時々笑っている様子を見て、「物の怪が取りついたのか」と驚きあきれた。

▼ポイント▲　まずは、正確に本文を解釈することが重要になる。そのうえで、火災に見舞われた良秀が茫然自失で立ち尽くしているのを見た人々の「あさましきこと」という感懐と、炎を眺めて笑みを浮かべている良秀を見た人々が「あさましきことかな」という発言の含意には大きな違いがある点に気づかせたい。

言葉と表現の解答例

1 **次の傍線部の語の意味の違いを調べ、それぞれ現代語訳してみよう。**
わろく書きけるものかな。（二〇・10）
悪しく書きけるなり。（二〇・13）

【答】 ・あまり上手くなく　・下手に

▼ポイント▲　「わろし」は「良くない」、「悪し（あし）」は「悪い」と訳出するのが一般的だが、そのうえで、この場面の文脈を踏まえて解釈することが重要である。

「わろく書きけるものかな」「悪しく書きけるなり」はいずれも、長年火炎の絵がうまく描けていなかったということを指していると読み取りたい。良秀が実際に燃えさかる炎を見たことで「もうけものをした」と喜んでいるところから、解答のようにまとめることができるだろう。

言語活動の解答例

1 **絵を描くことに対して、絵仏師良秀はどのような考えを持っているか、まとめてみよう。また、それについてどのように思うか、話し合ってみよう。**

【答】（意図）本文を正確に読み取りつつ、一般的には考えられないような良秀の価値観について理解することを目標とする。同時に、ひとりひとりが、そうした良秀の価値観についてどのように感じたかを主体的に発表する機会としたい。

（手順）

1　「絵を描くこと」に関して良秀の考えが反映されている箇所

がどこにあるかを探すように指示する。
2　良秀の会話文の中でも、特に「年ごろ～惜しみたまへ」の部分に着目し、正確に解釈する。
3　良秀の価値観について、どのように感じたかを生徒同士で話し合う。
（ゴール）現代において一般的な価値観が普遍的であるのではなく、多様な価値観が存在することについて理解する。場合によっては、芥川龍之介『地獄変』を紹介するなどして、良秀の価値観の特性について考えを深める。

（小林　俊洋）